

## 【調査票】

### ■第1画面(但し書き):

#### ■調査票の冒頭の但し書き:

本調査は、『国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』の一環として行っております。ぜひご協力ください。

なお、回答者のうち抽選で123名様にAmazonギフト券をお送りします。調査票にはメールアドレスを入力する欄がありますが、使用目的は2重回答の防止と、調査結果のご連絡、当選時のプレゼント送付のためです。個人情報取扱規定はこちらをご覧ください。

#### ※Amazonギフト券進呈:

抽選で123名の方にAmazonギフト券をプレゼントいたします。3名に『Amazonギフト券10,000円分』20名に『Amazonギフト券1,000円分』100名に『Amazonギフト券500円分』プレゼントの当選は、当選された方へのメール通知をもって代えさせていただきます。重複および、不正回答は抽選対象から除外させていただきます。

#### ※個人情報およびアンケート回答情報の取り扱いについて:

記入いただいたすべての情報は、株式会社QLife(以下「当社」といいます)が責任をもって管理運営いたします。記入いただいた個人情報は、当社が個人情報保護方針に基づき、適正に管理し、上記目的以外での利用および第三者に提供することはありません。記入いただいたアンケート回答情報は、統計的な処理を行い、学術的な研究や記事執筆などを目的として利用いたします。個人を特定する情報として利用することはありません。

### ■第2画面(設問群1)

No	設問文		選択肢
最初に、あなた自身について教えてください。			
Q1	年代を教えてください。	択一	10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上
Q2	性別を教えてください。	択一	男性 女性
Q3	お住まいの都道府県を教えてください。	択一	47都道府県
Q4	メールアドレスを教えてください。 ※プレゼントに当選した場合の連絡先として使用しますので、正確に入力してください。	FA	
Q5	「がん」の経験について、当てはまるものを選んでください。 ※複数の選択肢が当てはまる場合は、より上にある選択肢を選んでください。	択一	自身ががんの「患者」である、もしくは「がん」と診断された経験がある 過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある(ここでの家族の定義は、「同居家族」もしくは「配偶者・親子・兄弟姉妹」とします) 過去5年以内に、身近な親戚友人恋人に「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある 過去5年以内ではないが、それ以上前に近親者にがん患者が「いた経験」がある がんとは全く関係がない

■第2画面(設問群2) つづき

No	設問文		選択肢
Q6	<p>&lt;Q5で「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」と回答した場合&gt;            最初のがんと診断された時、何のがんと診断されましたか。当てはまるものを選んでください。            ※転移ではなく多重がんで年月を経てから新たな部位にがんが見つかった場合は、最初の部位ではなく最近の部位を選んでください。</p>	択一	脳 咽頭・喉頭 肺 食道 胃 十二指腸・小腸 大腸・直腸 肝臓 胆道・胆のう すい臓 腎臓・副腎 膀胱 皮膚 口腔・舌 子宮 卵巣・卵管 乳房 前立腺 精巣 甲状腺 白血病 骨髄腫 骨 軟部組織系(筋肉・脂肪) リンパ腫 その他
Q7	<p>&lt;Q5で「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある(ここでの家族の定義は、「同居家族」もしくは「配偶者・親・子・兄弟姉妹」とします)」と回答した場合&gt;            患者さんが、最初にがんと診断された時、何のがんと診断されましたか。当てはまるものを選んでください。            ※転移ではなく多重がんで年月を経てから新たな部位にがんが見つかった場合は、最初の部位ではなく最近の部位を選んでください。</p>	択一	脳 咽頭・喉頭 肺 食道 胃 十二指腸・小腸 大腸・直腸 肝臓 胆道・胆のう すい臓 腎臓・副腎 膀胱 皮膚 口腔・舌 子宮 卵巣・卵管 乳房 前立腺 精巣 甲状腺 白血病 骨髄腫 骨 軟部組織系(筋肉・脂肪) リンパ腫 その他

**■第2画面(設問群2) つづき**

No	設問文		選択肢
Q8	<Q5で「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」と回答した場合> 現在の治療状況として、一番近いものを教えてください。	択一	診断直後 入院治療中 通院治療中 特に治療はないが定期検査中 通院終了(治療も定期検査も終了) 緩和療養中(在宅・ホスピス等)
Q9	<Q5で「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある(ここでの家族の定義は、「同居家族」もしくは「配偶者・親・子・兄弟姉妹」とします)」と回答した場合> 患者さんの、現在の治療状況として、一番近いものを教えてください。	択一	診断直後 入院治療中 通院治療中 特に治療はないが定期検査中 通院終了(治療も定期検査も終了) 緩和療養中(在宅・ホスピス等) 既に亡くなった
Q10	あなたは、「患者会」(家族の会なども含む)に登録していますか。ただし「がん関連」の団体に限ります。	択一	登録しており、積極的に活動している 登録しているが、積極的には活動していない 登録していないが、会合に参加したり相談窓口を利用したことがある 登録していないし、参加・利用経験もない

**■第3画面(設問群3)**

No	設問文		選択肢
あなたが【現在】入手できる「がんに関する情報」について、教えてください。			
Q11	現在、あなたの周りに「がんに関する情報」が充分にあると思いますか。一番近いものを選んでください。 ※病気そのものについてだけでなく、関連する情報すべてを対象としてください。(検査、治療、予防、医療機関、医師、費用、経済支援、治験、家族協力、社会復帰、コミュニケーション、心理、統計など)	択一	おおいに足りている やや足りている あまり足りていない(やや不足) まったく足りていない(おおいに不足) わからない
Q12	<Q11で「あまり足りていない(やや不足)」「まったく足りていない(おおいに不足)」と回答した場合> どんな「がんに関する情報」が、今後増えて欲しいと思いますか。なるべく具体的に教えてください。	FA	
Q13	現在、あなたの周りに「がんに関する【患者視点】の情報」が充分にあると思いますか。一番近いものを選んでください。	択一	おおいに足りている やや足りている あまり足りていない(やや不足) まったく足りていない(おおいに不足) わからない
Q14	あなたは、1年前に、本調査と同様のアンケートに回答した覚えがありますか。	択一	はい いいえ

**■第4画面(設問群4)**

No	設問文		選択肢
治療法について教えてください。			
Q15	「先進医療」とは何か、ご存知ですか。 ※単に「先端医療」という意味でなく、健康保険法上の制度です	択一	良く知っている(他人に説明できるくらい) おおむね知っている(該当する具体的治療法を一つ以上知っている) あまりよく知らない 全く知らない
Q16	「標準治療/標準療法」とは何か、ご存知ですか。	択一	良く知っている(他人に説明できるくらい) おおむね知っている(該当する具体的治療法を一つ以上知っている) あまりよく知らない 全く知らない
Q17	「標準治療/標準療法」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか。	択一	良いイメージ 悪いイメージ どちらでもない
Q18	<Q5で「患者本人」「家族」で、かつQ16で「良く知っている(他人に説明できるくらい)」「おおむね知っている」と回答した場合> 最も最近にがんの治療法を決めた際、それが「標準治療/標準療法か否か」を知っていましたか。	択一	知っていた 知らなかった 覚えていない/治療法について考えたことがない
Q19	<Q5で「患者本人」「家族」と回答した場合> 最も最近にがんの治療法を決めた際、「お金」がどの程度大きな決め手でしたか。一番近いものを教えてください。	択一	お金に余裕があれば確実に別の選択肢にしていた お金に余裕があれば別の選択肢にした可能性がある お金のことはあまり考慮しなかった 覚えていない/治療法を決めたことがない
Q20	<Q5で「患者本人」「家族」と回答した場合> 最も最近にがんの治療法を決めた際、「もっと良い選択肢が、他にあるのではないか」と思いましたか。一番近いものを教えてください。	択一	「もっと良い選択肢が、他にあるのではないかと、強く思っていた(迷い/疑いが有った)」「もっと良い選択肢が、他にあるのではないかと、少し思っていた」「もっと良い選択肢が、他にあるのではないかと、あまり思わなかった」「もっと良い選択肢が、他にあるのではないかと、全く思わなかった(迷い/疑いが無かった)」「覚えていない/治療法を決めたことがない
Q21	<Q20で「あまり思わなかった」「全く思わなかった(迷い/疑いが無かった)」と回答した場合> なぜあなたは、「もっと良い選択肢が、他にあるのではないかと」思わなかったのでしょうか。思わなかった理由を教えてください。	FA	
Q22	「医療者が【患者視点】で【治療法】に関する情報提供をする」ためには、具体的にどんな風にすれば良いと思いますか。あなたのイメージを教えてください。 ※「治療法」以外の情報提供(例えば「病院・医師選択」など)については、ここでは書かないでください。	FA	

**■第5画面(設問群5)**

No	設問文		選択肢
患者会について教えてください。			
Q23	「患者会」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか。	択一	良いイメージ 悪いイメージ どちらでもない
Q24	前問で、そのように答えた「理由」を教えてください。 (または「患者会のイメージ」の具体的内容を教えてください)	FA	
Q25	<Q10で「登録しており、積極的に活動している」「登録しているが、積極的に活動していない」「登録していないが、会合に参加したり相談窓口を利用したことがある」と回答した場合> 「患者会」のメリットは何でしょうか。当てはまるものを選んでください。	複数	自分の話を聞いてもらえる 精神的なバックアップを受けられる 類似境遇の人ならではの想いを共有できる 治療に関する知識/ノウハウを得られる 生活に関する知識/ノウハウを得られる(補助具を安く購入できる、など) 社会に対して訴え・働きかけができる(新薬の承認促進運動、など) その他(具体的に教えてください→ 「                    」) わからない
Q26	<Q5で「患者本人」「家族」で、かつQ10で「登録していないし、参加・利用経験もない」と回答した場合> どんな「患者会」であれば、参加してみたいと思いますか。なるべく具体的に教えてください。	FA	

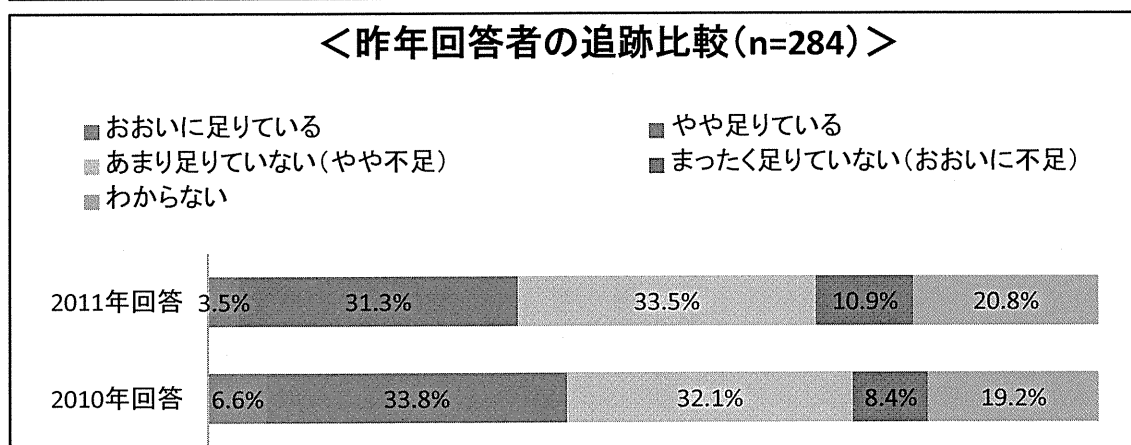
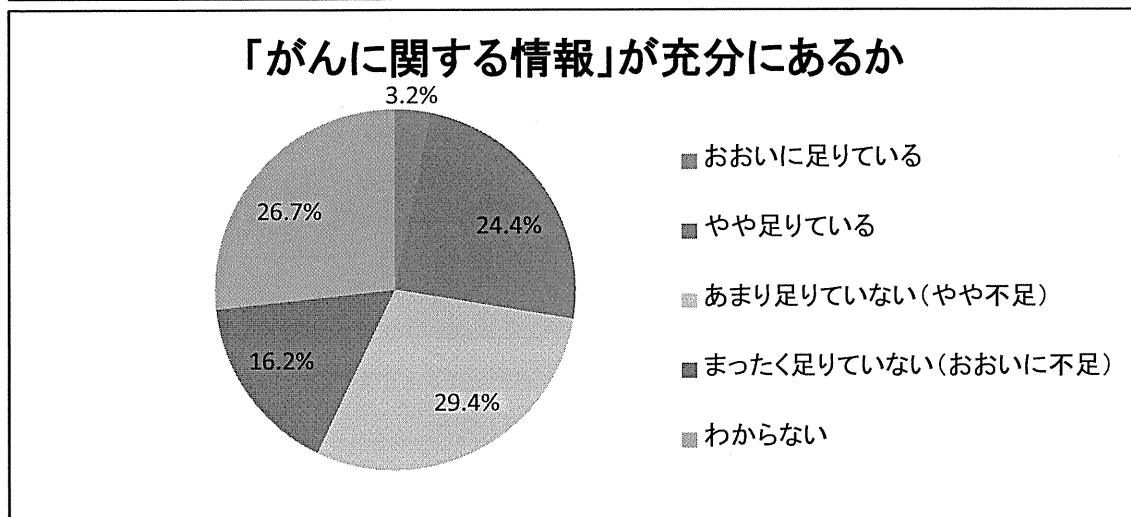
## 【調査結果の詳細】…＜情報不足感＞ 編

1. 現在、あなたの周りに「がんに関する情報」が充分にあると思いますか。一番近いものを選んでください。※病気そのものについてだけでなく、関連する情報すべてを対象としてください。（検査、治療、予防、医療機関、医師、費用、経済支援、治験、家族協力、社会復帰、コミュニケーション、心理、統計など）

「おおいに足りている」「やや足りている」とした人は計27.6%、「やや不足」「おおいに不足」とした人が計45.6%と、約半数が情報に対して不足感を抱いていることが分かった。

なお2010年回答者「追跡比較」では、この1年で約5%が「足りている」から「不足している」にシフトしており、情報の不足感は増していることが分かった。ただし、2010年調査との「1回目回答者比較」では、相対的に「家族」の不足感が軽減している。

	n	%
おおいに足りている	200	3.2%
やや足りている	1517	24.4%
あまり足りていない(やや不足)	1827	29.4%
まったく足りていない(おおいに不足)	1005	16.2%
わからない	1658	26.7%
計	6207	100.0%

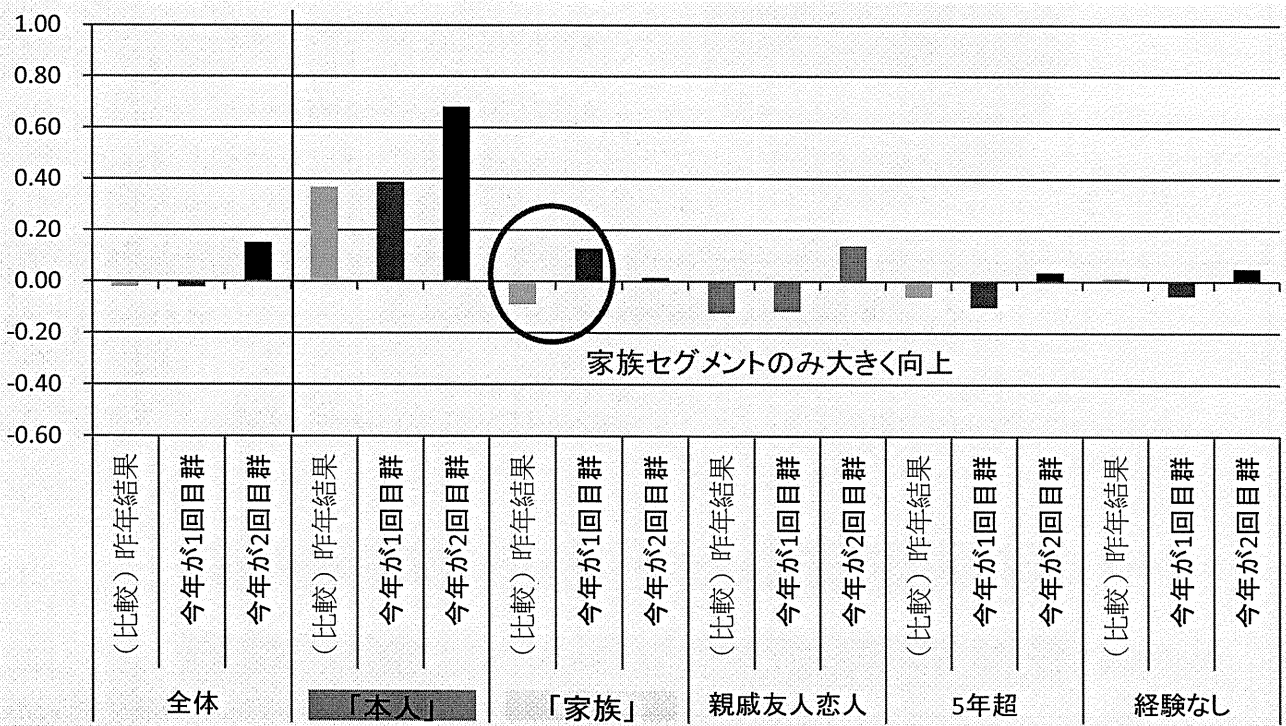
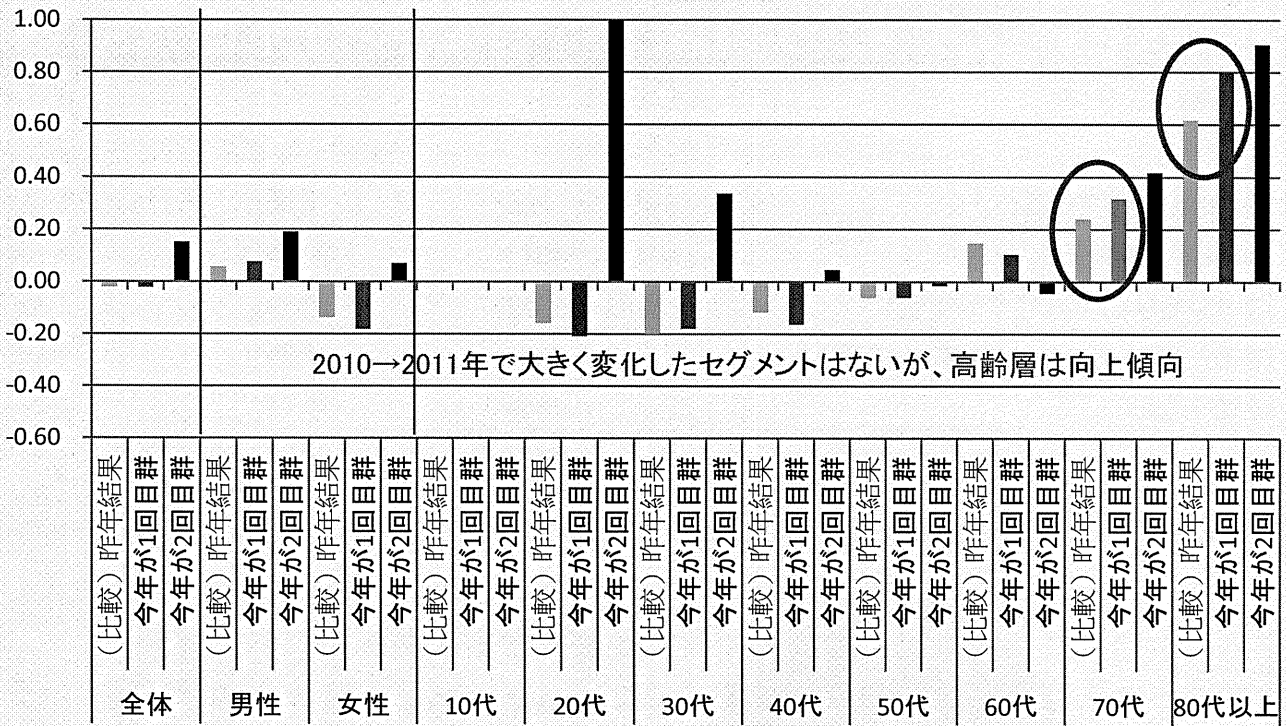


2010年調査は、「おおいに足りている」に+2、「やや足りている」に+1、「あまり足りていない(やや不足)」に-1、「まったく足りていない(おおいに不足)」に-2の係数を掛けて、合計値をスコア化。

2011年調査は、全体スコアを2010年に合致させてセグメント別比較をしやすいように、それぞれ2011年よりも+0.4の係数を用いて、スコア算出。

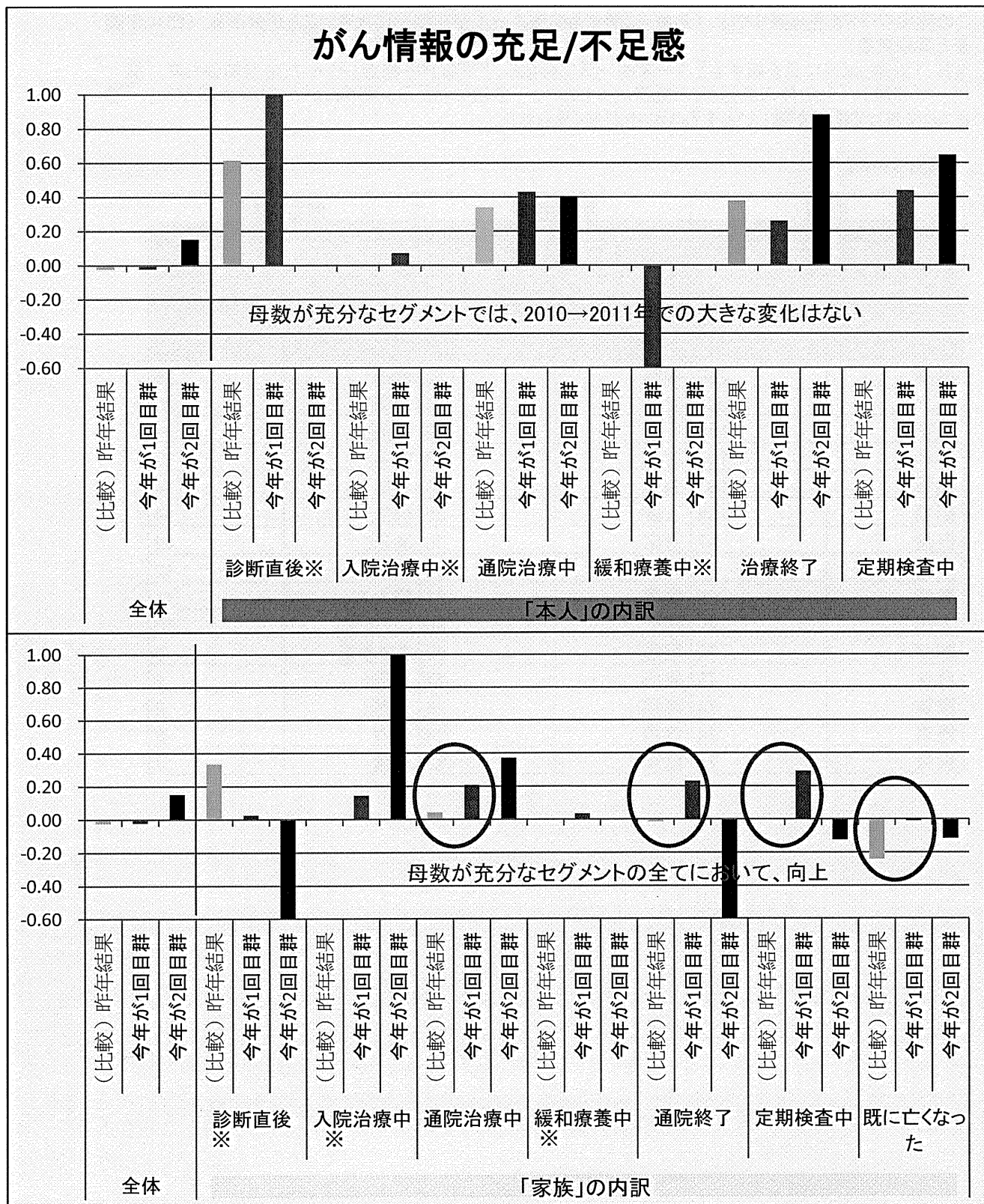
※2年連続回答者は不満が強いなど特殊要件が潜在する可能性から、「追跡比較」よりも「1回目同士比較」を重視

## がん情報の充足/不足感





注：※印の母数は個別分析には不十分



2. どんな「がんに関する情報」が、今後増えて欲しいと思いますか。なるべく具体的に教えてください。

自由に記述してもらった回答内容を、「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」に絞って頻出ワードを抽出した。この頻出ワードを見る限りでは、「治療」に関する情報ニーズが圧倒的に大きいことが分かる。(2010年調査と同様結果)

なお、「治療」以外に目を転ずるとニーズは一気に分散し、「予防」や「検査」といった治療前のもの、「費用」や「保険」、「自治体の支援」など経済的なものなど、多岐にわたる。個別のがんでは「大腸がん」、「肺がん」に対して情報が欲しいとするコメントが多く見られた。

【頻出ワード】

名詞		サ変名詞		形容動詞	
方法	402	治療	1059	必要	65
病院	333	予防	280	身近	40
費用	316	検査	215	可能	38
医療	306	発見	172	不安	28
症状	241	生活	126	健康	27
機関	210	検診	125	簡単	26
ガン	204	支援	74	有効	20
最新	150	手術	72	詳細	18
早期	140	診断	53	得意	17
種類	109	病気	48	危険	14
初期	109	入院	39	公的	14
保険	97	対応	36	高額	12
医師	96	関係	34	適切	12
患者	92	食事	31	様々	11
大腸	90	紹介	30	いろいろ	10
肺がん	77	相談	29	さまざま	9
具体	75	対処	27	正確	9
家族	74	復帰	26	気軽	8
経済	74	負担	24	色々	8
自分	71	自覚	23	高度	7

<つづき>

2. どんな「がんに関する情報」が、今後増えて欲しいと思いますか。なるべく具体的に教えてください。

以下に代表的なコメントを掲載する。

(頻出「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」の各上位2ワードを含むもの)

【方法】

がんの患者や家族に対する、がんになった時の心のケアにはどんな方法があるのかや治療方法に関する選択肢がどれだけあるか。  
 がんの最新医療、がんの予防、がんの触診でのチェックの方法など  
 がんの種類ごとに対応(治療)できる病院の一覧があれば。現在はがんを見つけたところで手術したが、その方法がいいのか判断できない。  
 がんの予防食材、日常生活における、がんにかかりにくい生活方法。  
 すべてのがんに関する治療方法と予後の状況(生存率、社会復帰率など)  
 その人に合った治療方法や行政の補助、ガン保険や医療保険の加入についての情報  
 癌の初期発見方法について  
 具体的な治療方法最新の治療方法  
 最新のがん治療の方法、薬剤の情報、病院の選び方、セカンドオピニオンの進め方等わかりやすく教えてもらいたい

【病院】

がんになった時の有名な病院または先生。身近な病院。治療法。  
 いま、がんと診断されたとしても、どのような病院や治療法が最前なのか全くわからない。  
 病院によって治療法が異なるのか。良い先生に巡り合いたい  
 がんの治療に効果をあげている病院・医師・治療法を知りたい。  
 癌検診を土日祝日等に受診できる病院  
 家族にガン患者がいるので、病院の情報や、最新の治療やその実績に関する情報などが増えてほしい  
 発がん原因に関する情報。がんが発生した部位における各病院の治療実績。  
 ホスピスが受けられる病院の情報を知りたい。又、その費用等。  
 先進医療をうけられる病院や価格等 どのような症状のときに癌を疑って病院に行くべきか

【治療】

がんの部位ごとの医療機関の治療実績  
 がん治療、予防の最前線が知りたい  
 がん治療中の生活費、治療費などの相談機関、サポート機関の情報。  
 どの病院がどのがんに力を発揮するといった情報。治療と副作用の情報。  
 医師やスタッフとのコミュニケーション、痛みの軽減、地域格差の改善、治療や病院の選択肢など。  
 一般的にがん治療にどれほどの費用がかかるのか、概算に関する情報が欲しい。  
 抗がん剤の適切な使用法に関する情報。手術治療の技術のレベル評価情報。  
 抗がん剤治療に関する副作用の情報など。

<つづき>

2. どんな「がんに関する情報」が、今後増えて欲しいと思いますか。なるべく具体的に教えてください。

**【予防】**

予防と早期発見できる方法

日常での予防法 簡単な自己検診の方法

がん予防やがん検診の料金や内容 治療法や専門医の情報 ホスピスの情報

「どんな食生活ががんになりやすいか」「がんの予防」などに関する情報。

がんの種類ごとに特集を組んで欲しいと思います。予防法なども気になります。

初期症状や予防法など、自分で気付いて改善できることを教えてほしい。

まずは、がんの初期症状や自覚症状、予防法などから知りたい。

日常の中でできる予防法など

**【必要】**

がんになって今後病状がどうなっていくぐらいの治療費が必要なのか知りたいし、無駄に延命治療を望まなければどうしたらいいのか

患者や家族間の会などではなく、広く偏見のない理解が必要だと思う。

幾ら位かかるのか、お金に関する事、どれ位、保険のほかに必要なのか心構え、など教えて欲しい。

病院でどのようながん治療が受けられるのか、自分の住んでいる地域で必要な治療が受けられる病院があるのかどうか。

どんな情報が必要なのかすらわからない状態です

治療を選択するのに必要な判断をするために必要な情報

手術、入院等の費用 保険請求の際に必要な事項

**【身近】**

身近な人ががんになった時にどのように協力すればよいか、

がんになった時の医療機関の情報があまりないのでもう少し詳しい情報が身近でわかるといい。

がん患者に対する接し方 検査、治療の明確な費用など身近な評判のいい病院の探し方

身近な人がガンになったときの病院・医師探しができるような情報がほしい

身近な、医療機関、存在自体、わからない。

年齢と共に増してくるがんになる可能性がある身近な情報

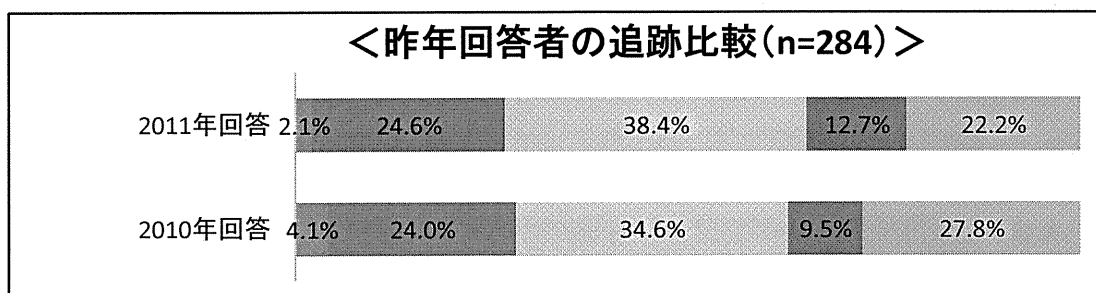
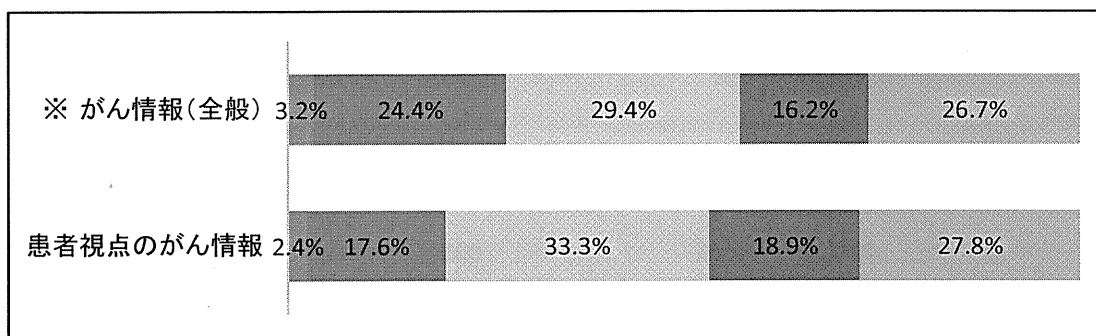
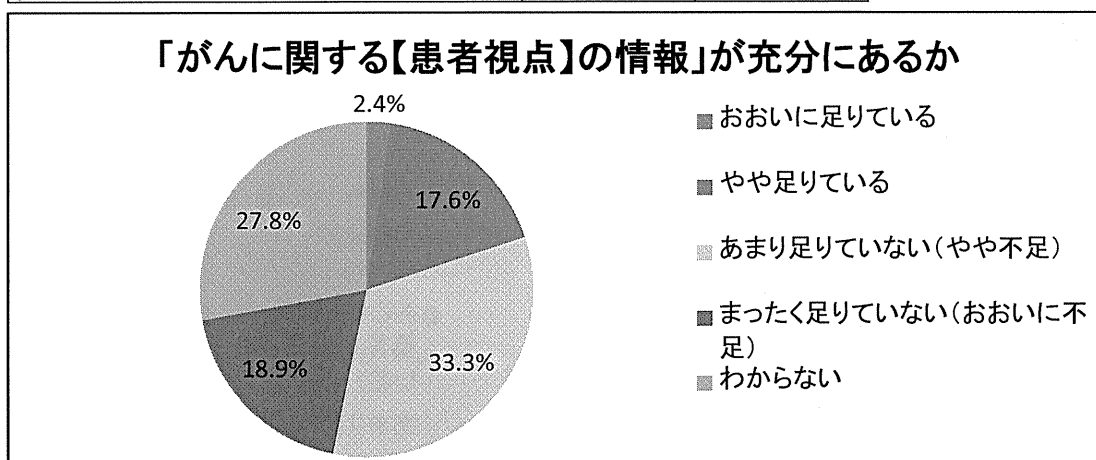
がんセンターなどの医療機関の身近に感じる事ができるわかり易い情報をどんどん発信してほしい。

乳がんなど女性特有のがんに関して初期症状など具体的な情報が身近に欲しい。

3. 現在、あなたの周りに「がんに関する【患者視点】の情報」が充分にあると思いますか。一番近いものを選んでください。

「おおいに足りている」「やや足りている」としたのは計20%、一方「やや不足」「おおいに不足」と回答したのは52.2%と、過半数が「患者視点の情報が足りない」と回答、その割合は「がん情報全体」の不足感よりも大きい。「がん情報」よりも「患者視点のがん情報」と質問する方が、「不足」回答者が多いのは2010年も同様であった。なお、2010年回答者追跡比較では、「おおいに足りている」がマイナス2ポイント、「やや不足」「おおいに不足」が合わせて7ポイント増加と、「患者視点情報」の不足感は増している。

	n	%
おおいに足りている	146	2.4%
やや足りている	1092	17.6%
あまり足りていない(やや不足)	2066	33.3%
まったく足りていない(おおいに不足)	1175	18.9%
わからない	1728	27.8%
計	6207	100.0%



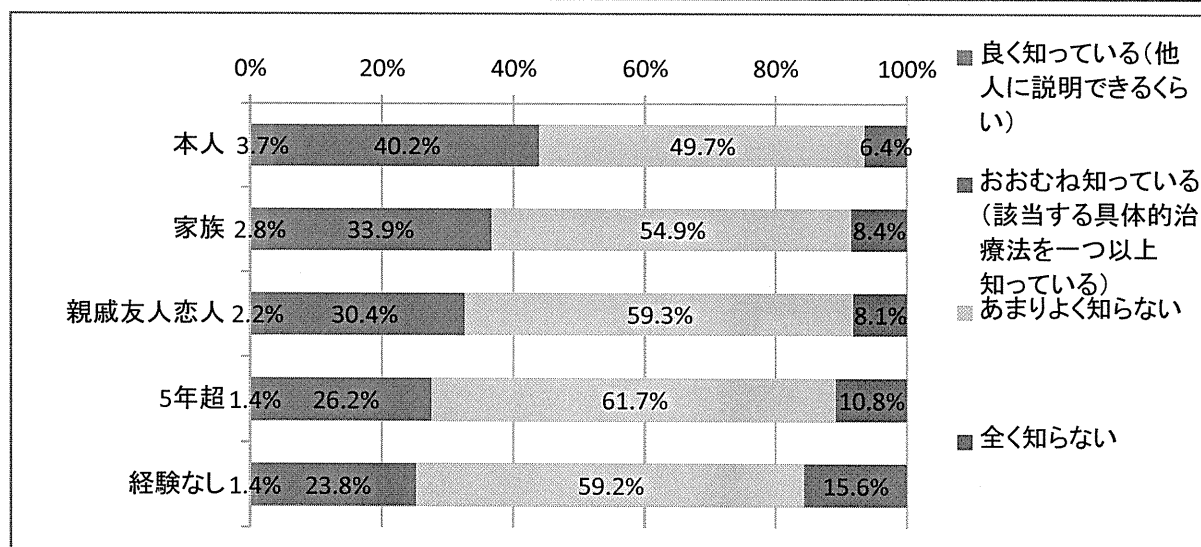
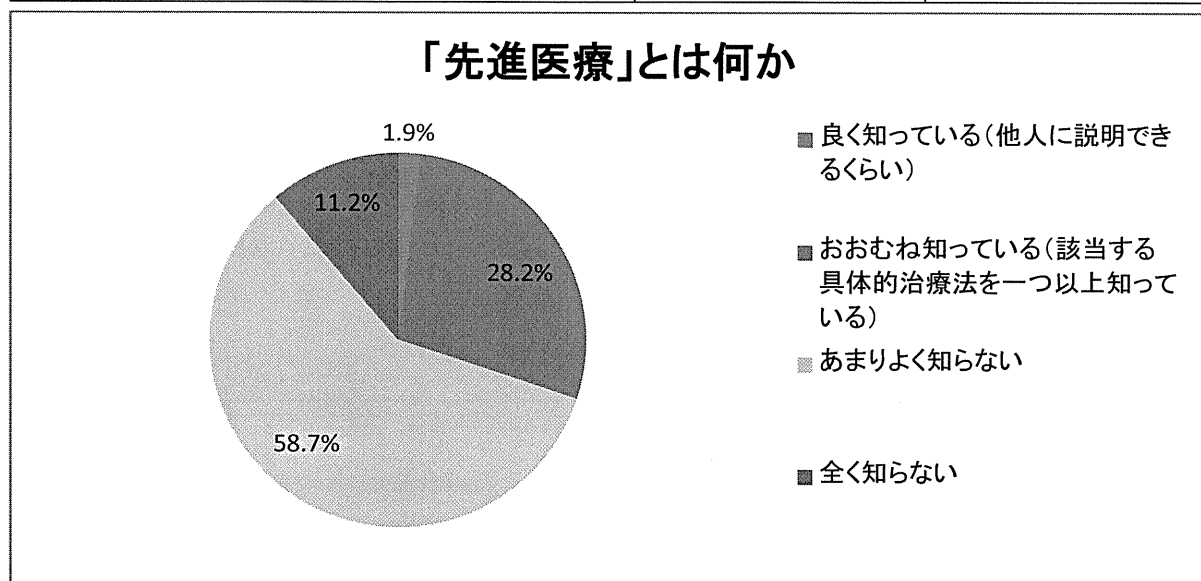
※再掲

## 【調査結果の詳細】・・・＜治療法＞ 編

### 1. 「先進医療」とは何か、ご存知ですか。 ※単に「先端医療」という意味でなく、健康保険法上の制度です

「知っている」と「知らない」は、3:7。しかも「本人」「家族」であってもそれぞれ56.1%、63.3%が「知らない」と答え、当事者でも「先進医療」についての認知・理解は乏しいことが分かった。

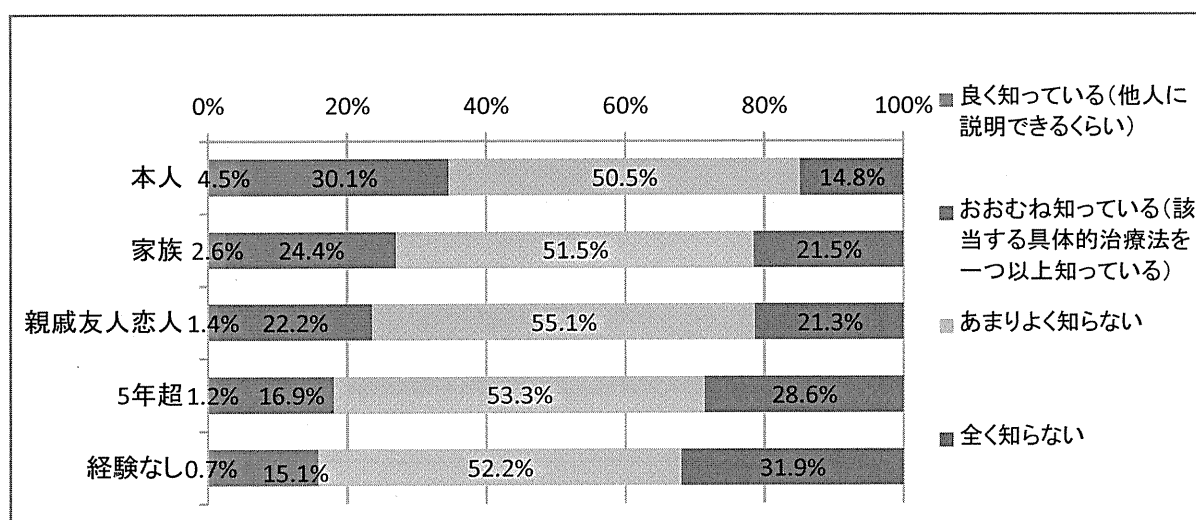
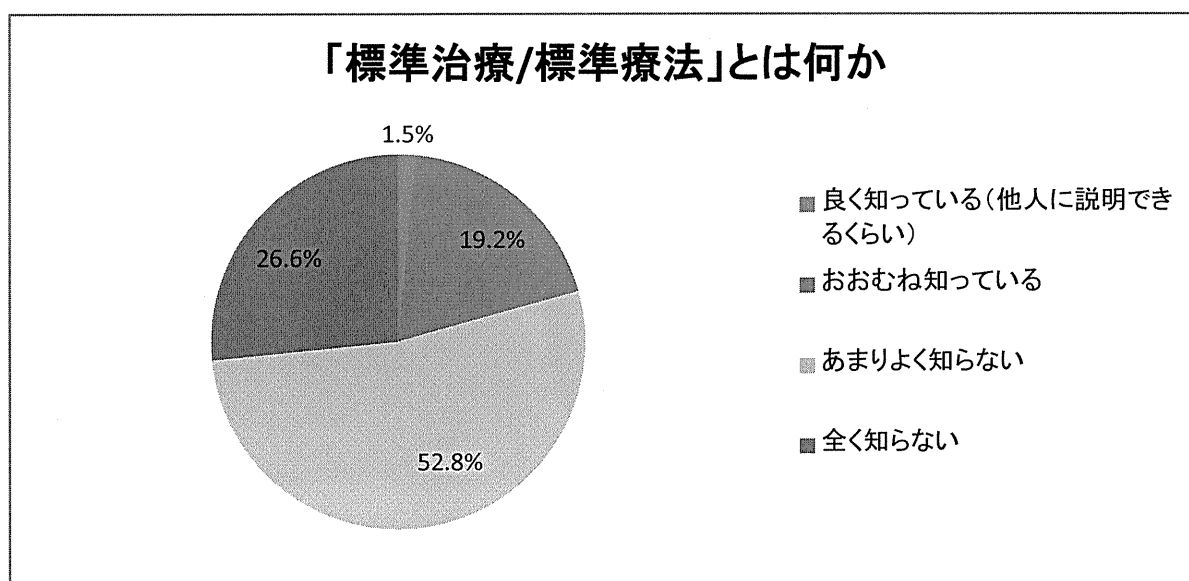
	n	%
良く知っている(他人に説明できるくらい)	117	1.9%
おおむね知っている (該当する具体的治療法を一つ以上知っている)	1750	28.2%
あまりよく知らない	3643	58.7%
全く知らない	697	11.2%
計	6207	100.0%



## 2. 「標準治療/標準療法」とは何か、ご存知ですか。

「良く知っている」「おおむね知っている」合わせても20.7%。先進医療よりも「知っている」回答割合が約10ポイントダウンした。しかも本人であっても65.3%が「知らない」と回答するなど、「標準治療/標準療法」に対する認知・理解が非常に乏しいことが分かった。

	n	%
良く知っている(他人に説明できるくらい)	94	1.5%
おおむね知っている	1190	19.2%
あまりよく知らない	3275	52.8%
全く知らない	1648	26.6%
計	6207	100.0%

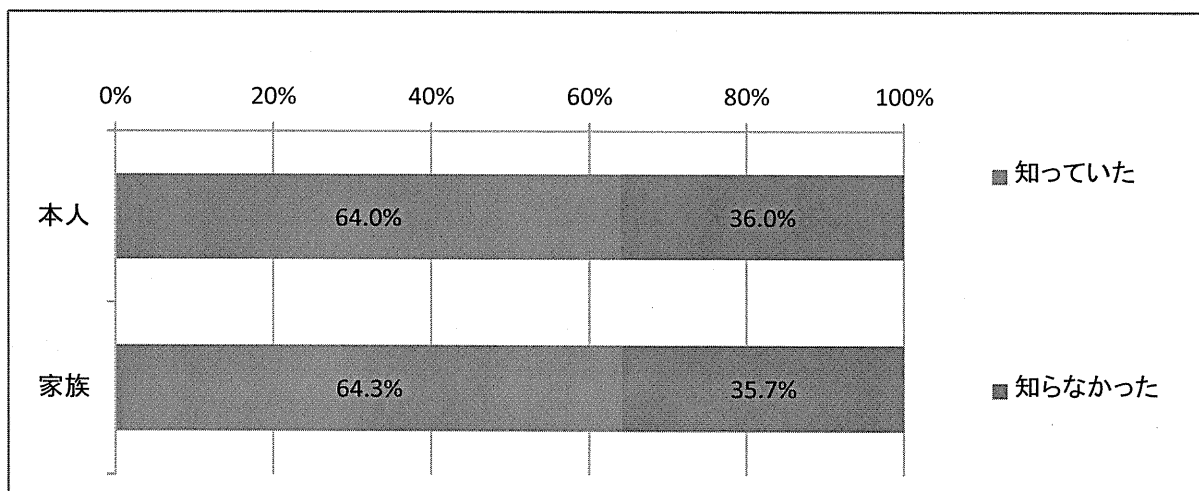
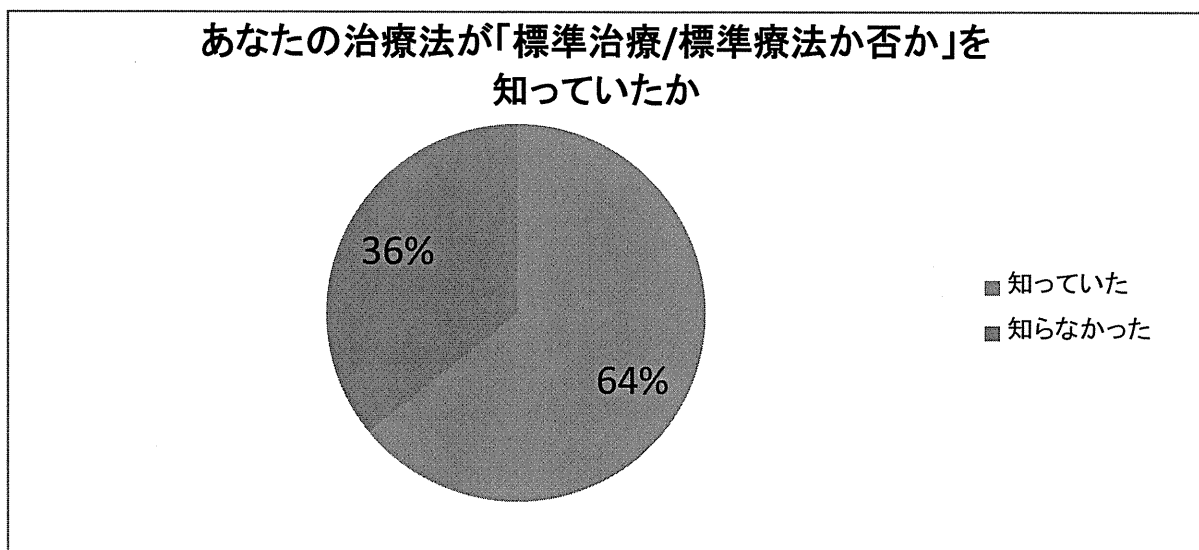


※「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」もしくは「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある」と回答し、かつ、標準治療／標準療法を「良く知っている」「おおむね知っている」と回答した方のみ

### 3.最も最近にがんの治療法を決めた際、それが「標準治療/標準療法か否か」を知っていましたか。

「知っていた」のは51.9%。「覚えていない」を集計母数から除外しても64.2%にとどまる。つまり現在「標準治療／標準療法とは何か」を知っている層であっても、最低でも3人に1人は、自身の治療法を決めた時点では、そのことを知らされていなかった、あるいは「知識」と「実践」の間に乖離が生じていたことが推察される。

	n	%	%
知っていた	206	51.9%	64.2%
知らなかった	115	29.0%	35.8%
覚えていない/治療法について考えたことがない	76	19.1%	除外
計	397	100.0%	100.0%



※「覚えていない／治療法について考えたことがない」を除外して集計

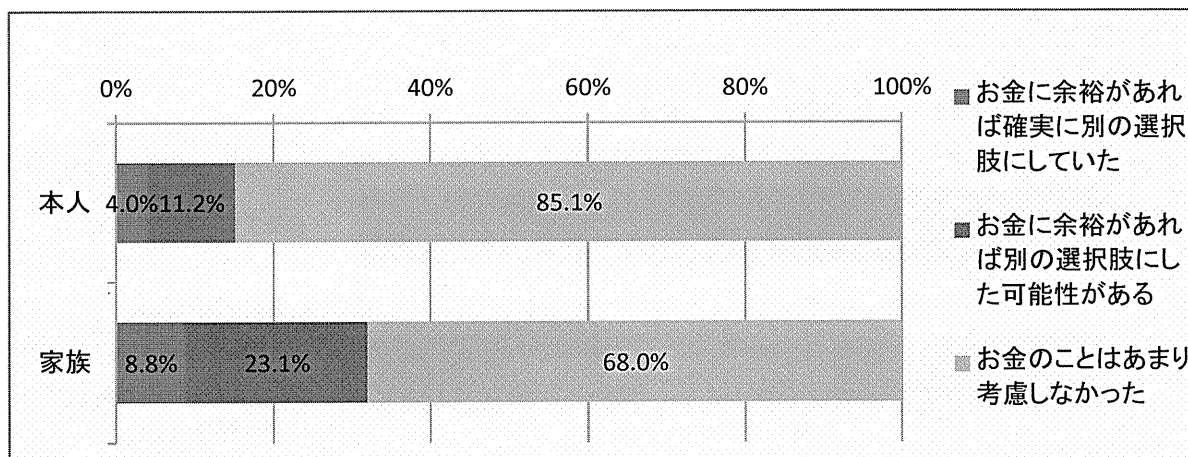
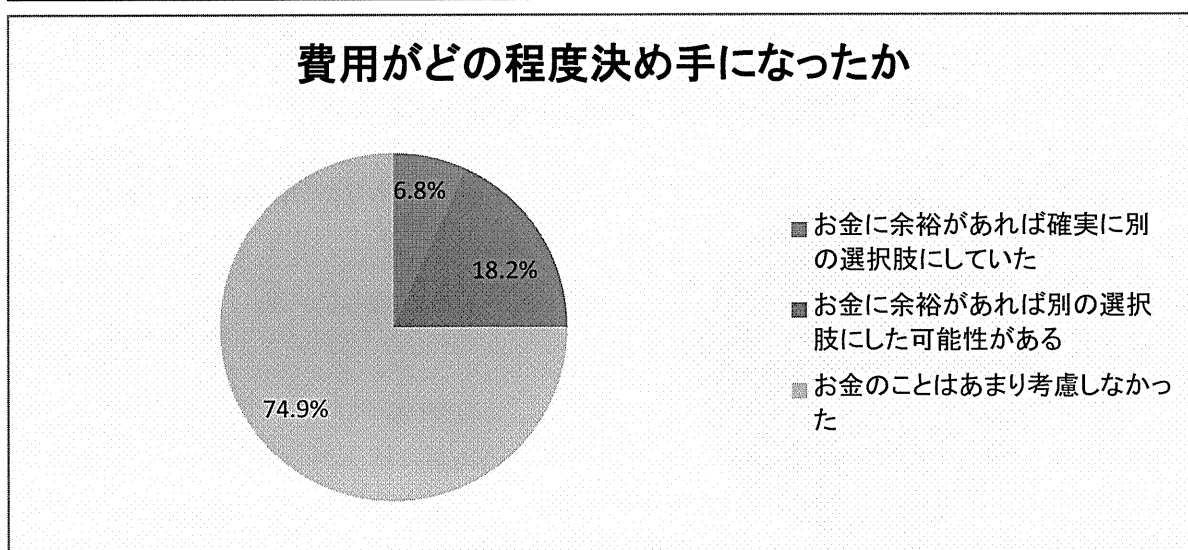


※「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」もしくは「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある」と回答した方のみ

**4.最も最近にがんの治療法を決めた際、「お金」がどの程度大きな決め手でしたか。一番近いものを教えてください。**

「お金のことはあまり考慮しなかった」との回答が最も多く74.9%となった。しかしながら、「本人」「家族」では大きな違いが見られる。家族の3人に1人は、治療法決定に「お金」が影響しており、自身の経済力や良心呵責などで大きなストレスを抱えている可能性が推測できる。

	n	%	%
お金の余裕があれば確実に別の選択肢にしていた	67	5.0%	6.8%
お金の余裕があれば別の選択肢にした可能性がある	179	13.4%	18.2%
お金のことはあまり考慮しなかった	736	55.3%	74.9%
覚えていない/治療法を決めたことがない	350	26.3%	除外
計	1332	100.0%	100.0%



※「覚えていない/治療法を決めたことがない」を除外して集計

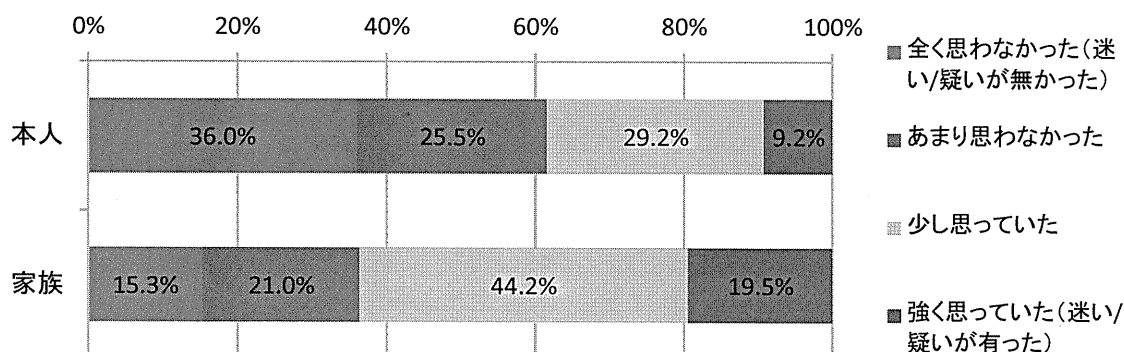
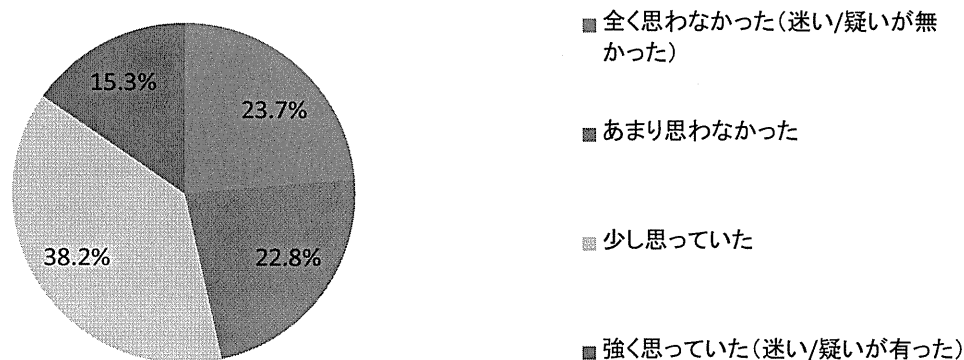
※「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」もしくは「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある」と回答した方のみ

**5..最も最近にがんの治療法を決めた際、「もっと良い選択肢が、他にあるのではないか」と思いましたか。一番近いものを教えてください。**

前設問と同様「患者」と「家族」で大きな差が見られた。「全く思わなかった」「あまり思わなかった」では患者が計61.5%と半数を超えたのに対し、家族は36.3%にとどまった。家族の納得度が低いまま、治療を行っている様子が分かる。

	n	%	%
全く思わなかった(迷い/疑いが無かった)	241	18.1%	23.7%
あまり思わなかった	232	17.4%	22.8%
少し思っていた	388	29.1%	38.2%
強く思っていた(迷い/疑いが有った)	156	11.7%	15.3%
覚えていない/治療法を決めたことがない	315	23.6%	除外
計	1332	100.0%	100.0%

**「もっと良い選択肢が他にあるのでは」と考えたか**



※「覚えていない／治療法を決めたことがない」を除外して集計

※「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」もしくは「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある」と回答した方で、かつ、治療法決定に際して「もっと良い選択肢が、他にあるのではないか」と思わなかった人

**6. なぜあなたは、「もっと良い選択肢が、他にあるのではないか」と思わなかったのでしょうか。思わなかった理由を教えてください。**

自由記述してもらった回答内容を、「名詞」「サ変名詞」に絞って頻出ワードを抽出した。「医師」「担当」「主治医」「先生」の「信頼」や「説明」が大きな理由となっていることが分かる。一方で、「情報」や「知識」は必ずしも上位ではない。

名詞		サ変名詞	
医師	110	治療	116
病院	48	信頼	76
方法	46	手術	63
医者	37	説明	59
主治医	31	担当	40
先生	25	納得	32
自分	22	切除	20
初期	18	選択	18
情報	18	検査	16
選択肢	15	診断	14
知識	14	摘出	13
ガン	13	信用	12
医療	12	転移	12
本人	12	判断	12
患者	10	発見	11

※「形容動詞」に関しては、母数が少ないため、省略。

<つづき>

6.なぜあなたは、「もっと良い選択肢が、他にあるのではないか」と思わなかったのでしょうか。思わなかった理由を教えてください。

以下に、代表的なコメントを掲載する。

(頻出「名詞」「サ変名詞」の各上位3ワードを含むもの)

#### 【医師】

医師から納得のいく説明を受けたから。  
 医師が決定した治療法を信じていたから。  
 医師が私の希望する選択肢を聞いてくれた。  
 医師の診断に疑問を持たなかった。  
 医師の診断方法を見ていて、レベルが高かったから。  
 医師の説明に十分納得し、インターネットや他の資料で調べた結果、受けた治療方法が最善の選択肢だと信じた。  
 医師の薦めや自分なりに調べた結果この治療方法で良いと思った師を信頼したから。

#### 【病院】

掛り付けの医師と大学病院の医師の治療法が同じだったので  
 癌専門病院で治療したから。  
 近隣で一番大きな病院なので、信用していました。  
 高価だが、評判の良い病院を、紹介してもらったから  
 最初の診断を受けた病院と手術を受けた病院は違っており、良い病院を選んだため。  
 最新医療と病院のパンフレットに書いてあったからそれを信じた

#### 【方法】

WEBで調べた結果、医師の治療と同じ方法が最も一般的であったから。  
 がんが乳房全体に散らばっているという医師の説明で、治療方法も含めて医師を信頼していたから。  
 医師の勧める方法を試して効果がなかったら他の方法を試そうと思った。  
 どのような治療方法があるのか知っていたので、自分の判断で選択したから。  
 医師より説明を受けた治療方法がもっとも体に負担がない方法だったから

#### 【治療】

選択された治療が標準治療であった。  
 早期の大腸がんだったので内視鏡で治療できたから  
 他の治療法の知識が無かった  
 担当の医師から、かなり詳しく治療法などの説明を受けていたから。  
 担当医から癌の進行状況と治療、手術方法の詳しい説明があり、その中から最善の選択した。  
 病気に対する知識があまりなかったし、病状が悪く色々な治療法を検討している時間がなかった。また、信頼できる担当医師だった

#### 【信頼】

医師を信頼していたので下駄を預けた形。  
 情報があり、信頼できると感じたから。  
 信頼できそうな病院、先生だったから  
 信頼のおけるDrとの出会いがあり、病院スタッフの環境も良かったから  
 先生の人柄に信頼感があったので、他の病院で再検査する気は起きなかった。

#### 【手術】

早期発見で、手術なしですんだ。今のところ転移していないから。  
 担当医から細かく説明を受けたうえで手術を選択した。医師の一番お勧めの方法を選択したので納得できた  
 即手術と言われたから、選択の余地はなかった。  
 担当医から初期癌で発見が早かったから体に負担の掛からない身体を傷つけない手術をされると言われたから。  
 内視鏡でがん化したポリープを切除する手術だったので、それ以外は考えられなかった。  
 先生に手術しかないと言われたから、疑いもせずに任せた